

【成果情報名】 パソコンで利用できる圃場別営農情報管理ツール

【要約】 Microsoft Excelで作成した圃場別営農情報管理ツールは、日々の作業内容を入力・集計して、エコファーマーの計画に対する実績管理ができる。

【キーワード】 営農情報、エコファーマー、圃場

【担当】 長崎総農林試・企画経営部・経営機械科

【連絡先】 電話0957-26-3330 電子メールtobay@pref.nagasaki.lg.jp

【区分】 総合・営農

【分類】 指導

【背景・ねらい】

人と環境に配慮した安全・安心な農産物ニーズが高まり、エコファーマー数は年々増加している。しかし一方で、計画の進捗状況の把握に個人差がある、計画書等の作成に時間がかかる、エコファーマーの段階的なレベルアップが必要等の問題も多い。

そこで、これら問題の解決を目的に、Microsoft ExcelのVBAにより、生産者個人が利用できる圃場別営農情報管理ツールを作成する。

【成果の内容・特徴】

1. 日々の作業実績（いつ、どの圃場で、誰が、どんな作業を、何時に、どんな機械・肥料や農薬を使って行ったか）を入力フォームから入力し、エクセルシートにデータを蓄積できる（図2）。
2. エコファーマの申請書・計画書の情報を入力フォームから入力し、エクセルシートにデータを蓄積できるとともに、提出用の申請書・計画書を作成できる（図3）。
3. 毎年の各圃場の有機質資材・化学肥料・化学農薬の投入量（または回数）の集計結果とエコファーマー計画書の目標値を比較し、計画の進捗状況を把握できる。
4. 初回起動時に基本項目（作業者名、圃場名、作業名、使用機械名、品目品種名、農薬名、肥料名）を設定すると、リストを使った入力ができる。また、圃場位置、圃場名、作付品目を掲載した地図を作成でき、これを閲覧しながらのデータ入力も可能である。
5. 県策定のGAPチェックリストの実践ができる（図4）。

【成果の活用面・留意点】

1. 地図上の圃場図形選択による作業実績等のデータ表示機能や、条件塗り分け等には対応していない
2. 利用にはMicrosoftExcel2000以上のインストールされたパソコンが必要である。

【具体的データ】



図1 メインメニュー画面

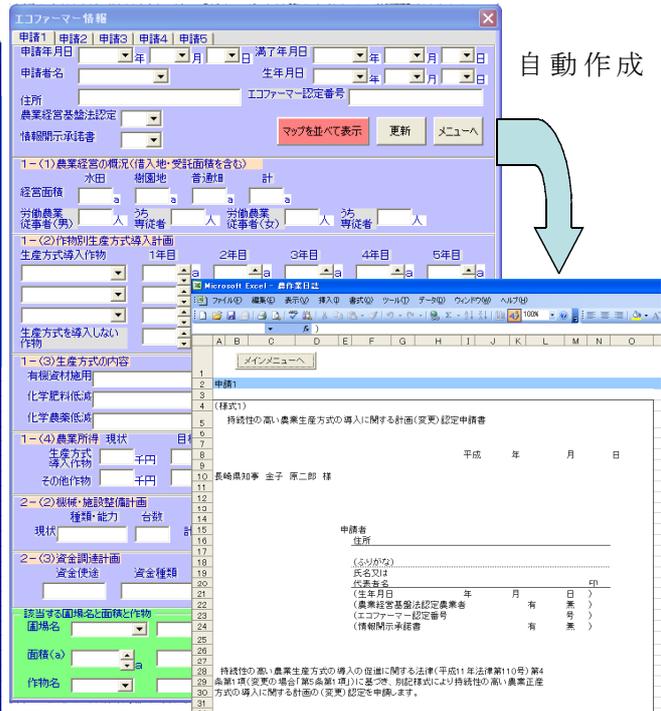


図3 エコファーマー情報の入力フォーム(左上)と申請書作成画面(右下)



図2 日々の作業実績入力フォーム

初心者の！「長崎県版GAPチェックシート」へ生産者

区分	チェック項目	チェック 十分:○ 一部不十分:△ 不十分:× 該当なし:-	備考(できなかった理由など)
共通事項	「食べ物を生産していること」「環境保全」を常に意識して、農業生産活動に取り組んだ。 研修会などに参加したり、ボランティアなどに積極的に参加した。また、栽培歴などを記録した。 農薬の水の量などを確認し、安全であることを確かめた。 使用済みプラスチックなどの廃棄物を地域の回収体制・方法にしたがって処理した。 肥料や農薬などは整理・整頓しており、捨てるときは業者等に委託して適正に廃棄した。 肥料や農薬の袋や飲み物の缶などはきちんと片付けるなど、ほ場やハウス周辺などの景観を維持した。 栽培履歴記録簿などを行い、肥料・農薬などの使用状況などを記録した。また、必要な帳簿を作り、それを保管している。 農作業機械などは定期的なメンテナンスと点検を実施した。ハウスでは適切な温度管理を行い、農産物の収穫を行った。	十分:○ 一部不十分:△ 不十分:× 該当なし:-	
栽培管理	適正な用量のたい肥や緑肥などによって土作りを行った。 肥料は、栽培履歴による施肥基準に基づいて施用した。 所定が「効果が発揮しやすい」管理を行った。また、発生する肥料などを活用して効果的・効率的な肥料を行った。 農薬は、適用作物や濃度・希釈倍率等の使用基準を守った。 農薬の飛散防止対策(強風時の作業中止など)を行った。また、周辺ほ場の農家と話し合うなどして、農家が希釈してないように対策を行った。 溝(大付溝、排水溝を含む)、河川、ため池、地下水などの水質保全や土壌環境保全のために、肥料や農薬の使用量は必要最低限に抑えた。環境にやさしい肥料・農薬を使用した。		※栽培履歴の施肥基準は、栽培履歴や改善計画に基づいて必要である ※肥料・農薬の希釈倍率や使用量は、必要最低限に抑えた。
収穫・出荷	収穫コンテナなどはこまめに洗浄し、収穫物が腐敗性微生物などで汚染されないようにした。 農薬使用の収穫前日数を確認し、適期収穫を行った。 作業前に作業者の健康状態を確認した。 農産物に影響のあるところで、飲食や喫煙を行わなかった。 種別・農産物の作業場を整理・整頓し、定期的に清掃した。 GAPに関して、一年間の反省を行って、来年の目標を定めた。 作物を生産するときに、環境、農産物の安全性、農家の健康にとって危ないところがないか、事前に確認して、対策を立てた。		
総合		十分:○ 一部不十分:△ 不十分:× 該当なし:-	

図4 県GAPチェックリスト画面

【その他】

研究課題名：春作バレイショ産地における緑肥作物を利用した環境保全型農業技術の確立
 予算区分：県単
 研究期間：2004～2006年度
 研究担当者：鳥羽由紀子、土井謙児